# 課題解決の筋書（ロジックモデル）

ウガンダ国新型エアゾール防蚊剤を用いたマラリア対策にかかるニーズ確認調査
大日本除虫菊株式会社

1・・・中間富裕層
2・・・貧困層

資源 → 活動 → 結果 → 成果（初期（～1年）／中期（～3年）／長期（～5年））

**投入資源**

・ヒト
自社人材
現地代理店人材
現地協力者

・モノ
提案製品

・カネ
自社資金
現地代理店資金
公的機関からの補助金（未定）

**活動**

- 登録取得
- 物流体制の確立（現地代理店との契約締結？）
- 製品の効果を検証する。

**結果**

- 業務用ルートで集団生活者に販売する
- 一般小売店を通じて中間富裕層に販売する
- 製品の安全性についての啓発活動を行う。
- 製品の優位性について国際会議等で発表する。

**成果**

- 蚊帳を入れにくい場所（病棟、学生寮等）で製品が導入される。
- 製品を使った部屋にいる人が蚊に刺されにくくなる。（1）
- 集団生活者や中間富裕層の間で製品が普及する。（1）
- 公共調達（NGO国際機関等）により製品が導入される。
- 製品が貧困層に届く。（2）
- 製品利用者がマラリアに罹りにくくなる。（1 2）
- 中間富裕層の就業日数が増える。（1）
- 学生の就学日数が増える。
- 学生の学力が伸びる。
- 学生が職につける。
- 収入が増える。（1）
- 医療費が払える。（1）
- 人々が健康になる。（1 2）
- マラリア治療に必要なコスト（カネ・ヒト）が減少する。
- マラリア以外の病気に対するリソース（カネ・ヒト）が増える。